

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101315		
法人名	社会福祉法人 千歳会		
事業所名	グループホーム青沼		
所在地	山梨県甲府市青沼2丁目23番1号		
自己評価作成日	平成28年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年10月27日(木)		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域密着事業所として徐々に地域に定着し、業務を運営するうえで次のような事柄に重点を置き推し進めている。</p> <p>① 推進会議には、地域包括、自治会役員、民生委員、近隣住民等が医院で構成され、その計らいで運動会や神社祭典に出掛け、交流している。</p> <p>② 市街地にあるのでスーパーやドラッグストア等に出掛け、買い物を楽しんでいる。</p> <p>③ 季節感を取り入れた行事を企画し、お花見や紅葉狩に出掛け大変好評である。</p> <p>④ 時には、利用者の食べたいものを聞き、ラーメン屋や回転ずし等の外食も楽しんでいる。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は甲府市の中心地にあり、建物が大通りに面しているため、玄関の外をフェンスで囲み危険防止対策がしてある。また、周辺にはコンビニエンスストアや喫茶店、市民会館等があり、利便性がある生活しやすい環境である。ユニットは1階と2階で、建物の周辺に妨げるものがないので陽当たりが良く、清掃が行き届いて清潔感がある。利用者は明るく、ゆったりした環境で、将棋やトランプ等で趣味の時間を過ごしている。またユニットごとに備えてある電話で家族と話すことも楽しみにしている。自治会に入って避難訓練や行事等を介して、地域住民との連携が取れている。また災害警報が出た際には、同法人の施設から幹部職員の応援があり待機するなど協力体制ができています。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム青沼

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム要所所に理念及び基本方針を掲げ、職員個々にも手渡し、それを日々念頭に業務にあたることを基本としている。また、時には会議等で理念及び基本方針を確認し、全職員「人間愛に満ちて」最良の介護を行うように取り組んでいる。	ホーム要所所に理念及び基本方針を掲げ、職員個々にも手渡し、それを日々念頭に業務にあたることを基本としている。また、時には会議等で理念及び基本方針を確認し、全職員「人間愛に満ちて」最良の介護を行うように取り組んでいる。	「人間愛に満ちて」を開設当初からの理念に掲げ、人と人のふれあいを大切にしている。人生の先輩として職員が利用者から学ぶことも多く、尊敬の念を持って支援している。ホームの要所に理念と基本方針を掲示して、職員の朝夕の申し送りや生活の中で情報を共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大地震を機に避難訓練においても避難誘導時の協力を近隣住民に得ている。自治会行事の一環である運動会や神社の祭典・文化祭等の参加あるいは見学し交流している。	大地震を機に避難訓練においても避難誘導時の協力を近隣住民に得ている。自治会行事の一環である運動会や神社の祭典・文化祭等の参加あるいは見学し交流している。	小学校の運動会、神社の祭典、市民会館で行われる文化祭への参加や見学をしている。自治会に入っているため、回覧版等で地域の情報を得ることができる。運営推進会議で訓練の内容を報告することで、利用者の避難誘導を近隣住民で共有出来る環境、体制ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区GH、多機能事業所等が交流する東包括の交流・研修会等に定期的に参加し実践内容の報告や事例八表を通して情報交換をしている。また地元高校からの研修生の受け入れ、新規事業所を開設す幹部職員の研修の場を提供している。	地区GH、多機能事業所等が交流する東包括の交流・研修会等に定期的に参加し実践内容の報告や事例八表を通して情報交換をしている。また地元高校からの研修生の受け入れ、新規事業所を開設す幹部職員の研修の場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事、事業計画、報告の他、利用者の実態報告し、委員の意見や要望を受け話し合い運営に反映している。また当該評価で明らかになった課題を会議にて意見を聞く等改善を図っている。	年間行事、事業計画、報告の他、利用者の実態報告し、委員の意見や要望を受け話し合い運営に反映している。また当該評価で明らかになった課題を会議にて意見を聞く等改善を図っている。	2か月に1回開催し事業計画や利用者のおよすを報告し、家族代表から活発な意見が出され要望に応じている。「感染症が流行する時期に外出を控えて欲しい」という希望があり利用者が室内で楽しめるような行事を考えた。会議の議事録は玄関フロアの壁に掛けてあり、誰でも閲覧できる体制になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保受給者が多く(6名)、介護報酬請求や医療面受診等日常的に関わりを以ている。また市介護サービス協議会の会員で会が開催する事業や研修会、グループワークに参加し対話の機会は多々ある。そこで得たものを業務に活かしている。	生保受給者が多く(7名)、介護報酬請求や医療面受診等日常的に関わりを以ている。また市介護サービス協議会の会員で会が開催する事業や研修会、グループワークに参加し対話の機会は多々ある。そこで得たものを業務に活かしている。	制度を利用している方が多いので連絡を取ったり、運営推進会議の議事録を渡す等、担当者で話す機会が多い。管理者が、市のサービス向上委員会のメンバーで会議に出席して、各事業所の課題を議題にして協議している。出席後は、勉強会を開催して職員間で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを基本原則として介護業務に当たっている。拘束排除に関するマニュアルも整備しており常時習得が可能な体制になっている。	身体拘束をしないことを基本原則として介護業務に当たっている。拘束排除に関するマニュアルも整備しており常時習得が可能な体制になっている。	マニュアルがあり職員間で共有している。外部からの侵入と危険防止の為、玄関とフェンスは施錠しているが利用者の要望に応じて開錠し、職員の付き添いで外出している。スピーチロックは、職員間で声かけし注意し合って支援している。また必要であれば、管理者が個別に注意する事もある。個室の窓は朝開錠し夜間は閉めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務マニュアル及び全体会議の中で虐待に繋がる言葉遣いについて話し合い、研鑽し防止に取り組んでいる。何気なく発した言葉や態度が受け止められることがないように利用者に接している。	業務マニュアル及び全体会議の中で虐待に繋がる言葉遣いについて話し合い、研鑽し防止に取り組んでいる。何気なく発した言葉や態度が受け止められることがないように利用者に接している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人制度に関して研修も受講済みであり、制度そのものを理解してない。従って必要性が生じた場合を考え研修を要するものと考えます。	成年後見人制度に関して研修も受講済みであり、制度そのものを理解してない。従って必要性が生じた場合を考え研修を要するものと考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づいて詳細に説明し要望を聞いて可能な限り対応することを約束し契約を締結している。また退所に当たっても状況変化により契約解除及びぶ場合は、対応方針を相談している。	契約書、重要事項説明書に基づいて詳細に説明し要望を聞いて可能な限り対応することを約束し契約を締結している。また退所に当たっても状況変化により契約解除及びぶ場合は、対応方針を相談している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム青沼

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談事、意見、要望、不満等直接管理者やケアマネ、介護職に、また推進会議の場で言うように心がけている。家族には、来訪時や電話、定期便で報告している。出された要望は検討し対応している。	相談事、意見、要望、不満等直接管理者やケアマネ、介護職に、また推進会議の場で言うように心がけている。家族には、来訪時や電話、定期便で報告している。出された要望は検討し対応している。	個人的な希望・要望はその都度対応をしている。利用者が職員に言えないような場合がある時には、面会時に家族が代弁している(あんばんを食べたい・病院受診の希望等)。運営面の要望はあまりない。玄関に「意見箱」が置かれてある。また推進会議に出席出来ない家族や、利用者が把握出来るように会議録が事務所に吊るしてある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じた主権やケアマネを中心とした検討会において業務運営に関して意見や提案を聞く機会を設けサービス全般の質の向上に努めている。花菱荘長は定期的に来訪し利用者や職員と対話して運営に反映している。	必要に応じた主権やケアマネを中心とした検討会において業務運営に関して意見や提案を聞く機会を設けサービス全般の質の向上に努めている。花菱荘長は定期的に来訪し利用者や職員と対話して運営に反映している。	特別なヒアリングはしていないが、管理者が随時職員と会話し、意見や要望を聴いている。法人の施設長が月1回来所して職員との対話出来る。また行事の提案は、担当職員と協議し企画に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	花菱荘長は月一程度で現場で利用者や職員と語り合い利用者の生活状況を把握し、職員と意思疎通を図り向上心が持てるように働きかけている。また資質向上のため介護福祉士等の資格取得のため受験機会を確保している。	花菱荘長は月一程度で現場で利用者や職員と語り合い利用者の生活状況を把握し、職員と意思疎通を図り向上心が持てるように働きかけている。また資質向上のため介護福祉士等の資格取得のため受験機会を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所や法人グループで開催される研修会・勉強会に全職員が受講できるようにしている。参加した職員が必要に応じて資料の閲覧ができるようになっている。新人職員には、1~2ヶ月ケアの技術面その他、関わりを丁寧に指導している。	事業所や法人グループで開催される研修会・勉強会に全職員が受講できるようにしている。参加した職員が必要に応じて資料の閲覧ができるようになっている。新人職員には、1~3ヶ月ケアの技術面その他、関わりを丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会、介護労働センター、市介護事業者評議会主催の研修会・GW・事例検討会・発表を通して地域内外多くに事業所と交流し、情報交換したことをサービスの質の向上に活かしている。	県GH協会、介護労働センター、市介護事業者評議会主催の研修会・GW・事例検討会・発表を通して地域内外多くに事業所と交流し、情報交換したことをサービスの質の向上に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	順番が来た場合、事前に本人と会って心身の状況や本人の思いに向き合い、利用者が決まった介護士が本人に受け入れるような関係づくりに努めている。(認知症の度合いによって、家族にも聞くことがある)	順番が来た場合、事前に本人と会って心身の状況や本人の思いに向き合い、利用者が決まった介護士が本人に受け入れるような関係づくりに努めている。(認知症の度合いによって、家族にも聞くことがある)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前若しくは入所後キーパーソンに利用者の心身の状態にやこれまでの家族の苦労や今日までのサービスの利用状況をできるだけ詳しく聞き、それをサービス提供に活かしていくことを前提に信頼関係を築いていく。	事前若しくは入所後キーパーソンに利用者の心身の状態にやこれまでの家族の苦労や今日までのサービスの利用状況をできるだけ詳しく聞き、それをサービス提供に活かしていくことを前提に信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を確認して、空きがない場合、可能な限り柔軟な対応して空きができるまで他のサービスが利用できるようにアドバイスしている。本人と家族にとって問題点を見出してその解決策としてサービスを提案している。	現状を確認して、空きがない場合、可能な限り柔軟な対応して空きができるまで他のサービスが利用できるようにアドバイスしている。本人と家族にとって問題点を見出してその解決策としてサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者であるが故に普段から利用者に教えてもらう場面が多い。そうしたことからその場面づくりを工夫し、協働しながら穏やかに、そして和やかに生活ができるように関係を築いていく。	年長者であるが故に普段から利用者に教えてもらう場面が多い。そうしたことからその場面づくりを工夫し、協働しながら穏やかに、そして和やかに生活ができるように関係を築いていく。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム青沼

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を具体的に伝え、そこで情報交換して絆を深め信頼関係を構築していく。そうした中で利用者を支えていくための家族との関係がさらに深まっている。	利用者の状況を具体的に伝え、そこで情報交換して絆を深め信頼関係を構築していく。そうした中で利用者を支えていくための家族との関係がさらに深まっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人生経験を断ち切らないように心がけ友人や、知人等が面会できるようにしている。また馴染みの美容院やお店に行ったり、一人一人の生活習慣を尊重している。	これまでの人生経験を断ち切らないように心がけ友人や、知人等が面会できるようにしている。また馴染みの美容院やお店に行ったり、一人一人の生活習慣を尊重している。	昔の同僚や以前住んでいた近所の方等が面会に来た際には、継続できるよう、帰りがけに「また来て下さい」と声をかけている。各フロアーに備えてある電話で家族と話ることがある。利用者の多くは馴染みの訪問美容室や理容室を利用しているが以前行っていた美容院に職員の送迎でパーマや毛染めをしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が団楽できる時間や気の合う利用者同士で過ごせる場面づくりを介護者が中に入って支援している。食事やおやつも一緒に食べ、それぞれの量や好き嫌いを把握している。	利用者同士が団楽できる時間や気の合う利用者同士で過ごせる場面づくりを介護者が中に入って支援している。食事やおやつも一緒に食べ、それぞれの量や好き嫌いを把握している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人グループの老健や特養に移り生活している利用者には、時に励ましの言葉を掛けたり、現状を聞いている。また、他の施設に移られた利用者の情報を得て関係を断ち切らないようにしている。	法人グループの老健や特養に移り生活している利用者には、時に励ましの言葉を掛けたり、現状を聞いている。また、他の施設に移られた利用者の情報を得て関係を断ち切らないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中から夜間チームワークを支援し、表情や動作、話し方から要望を聞いたりして真意を確認するようにしている。意思等を推し量ることが困難な場合は家族と相談しながら対応している。	日中から夜間チームワークを支援し、表情や動作、話し方から要望を聞いたりして真意を確認するようにしている。意思等を推し量ることが困難な場合は家族と相談しながら対応している。	新聞の購読、美容院への外出、将棋、トランプの相手等個々の状況に合わせて、無理強いすることなく要望に寄り添った支援をしている。要求が言えない方には、家族から情報を得たり、本人の体調や表情、行動等の変化から読み取り、家族に伝えて対応を相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、親族若しくは担当のケアマネから生活歴を聞いて、個々の状況を把握して共同生活に慣れるように支援している。	本人、家族、親族若しくは担当のケアマネから生活歴を聞いて、個々の状況を把握して共同生活に慣れるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心理面、生活のリズムを念頭にして表情、動作等をくみ取りその日、その日の生活リズムのに取り入れている。できないことよりできることに着目し力量が発揮され、満足感として捉えられるように支援している。	個々の心理面、生活のリズムを念頭にして表情、動作等をくみ取りその日、その日の生活リズムのに取り入れている。できないことよりできることに着目し力量が発揮され、満足感として捉えられるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成、見直しの時、本人や家族から要望を聞き、モニタリング。ケアカンファレンスで意見交換して課題を評価し、次のプランに活かしている。時には、介護保険更新時に調査員の意見も参考にして職員間で話し合いプランに反映している。	プラン作成、見直しの時、本人や家族から要望を聞き、モニタリング。ケアカンファレンスで意見交換して課題を評価し、次のプランに活かしている。時には、介護保険更新時に調査員の意見も参考にして職員間で話し合いプランに反映している。	長期ショートステイから入居になる方が多いので、ケアマネジャーから入居前の情報を得て仮プランを作成し日々の生活の様子や記録から10日程で本プラン作成している。職員からの情報や家族の要望を聞いてモニタリングをする。基本的には介護保険の更新1~2年継続するが、問題や変化がある時には本人、家族を交えて検討してプランの変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を重視食事摂取から排泄状況、本人の言葉、エピソード等も記録している。それを全員が確認し、申し送り共有している。それを前提に介護計画を見直している。	個々の記録を重視食事摂取から排泄状況、本人の言葉、エピソード等も記録している。それを全員が確認し、申し送り共有している。それを前提に介護計画を見直している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム青沼

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット名(1階) おむつや日用品、衣服品にの購入に至るまで柔軟に対応しており、本人は勿論家族にも好調である。	ユニット名(2階) おむつや日用品、衣服品にの購入に至るまで柔軟に対応しており、本人は勿論家族にも好調である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会役員、市笑顔ふれあいサポート事業の一環でボランティアの訪問を毎月受け入れている。納涼祭にも参加して頂くなど交流を深めている。地域包括とも連携しているいと相談している。	自治会役員、市笑顔ふれあいサポート事業の一環でボランティアの訪問を毎月受け入れている。納涼祭にも参加して頂くなど交流を深めている。地域包括とも連携しているいと相談している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からかかりつけ医で医療が継続できるように、また新たな病気についても家族と相談しながら複数の医療機関と関係を密にして受診している。	利用前からかかりつけ医で医療が継続できるように、また新たな病気についても家族と相談しながら複数の医療機関と関係を密にして受診している。	内科医は全利用者が協力医を主治医として、2週間に1回の往診を受けている。眼科等診療内容によっては、以前からのかかりつけ医を受診している方もいる。毎週火曜日は訪問看護師が来所して支援している。週1回の訪問歯科を受けて口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護により利用者の健康管理や状態変化に応じ適時対応している。また、24時間体制で連絡が出来る状態なので緊急時にも指示を仰ぐことに対応している。	毎週火曜日に訪問看護により利用者の健康管理や状態変化に応じ適時対応している。また、25時間体制で連絡が出来る状態なので緊急時にも指示を仰ぐことに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはADL状況や過去の病気、現状の医療機関を提供し、適時面会に行き回復状況や治療期間の予定を担当医に、看護師、医療相談員から聞き対応している。また家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけている。	入院時にはADL状況や過去の病気、現状の医療機関を提供し、適時面会に行き回復状況や治療期間の予定を担当医に、看護師、医療相談員から聞き対応している。また家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為(経管栄養)が必要な状態になった場合、家族及び主治医と話し合い退所方向付けしている。平成26年10月より、当施設での看取りケアも実施しているので、本人や家族の意向も確認しながら行っていきたいと考えている。	医療行為(経管栄養)が必要な状態になった場合、家族及び主治医と話し合い退所方向付けしている。平成26年11月より、当施設での看取りケアも実施しているので、本人や家族の意向も確認しながら行っていきたいと考えている。	平成26年10月から看取りを実施している。経管栄養や吸引が必要になった時は法人の特別養護老人施設に移ることもある。看取り時は主治医の判断で家族の了承を得て行っている。見送りの際利用者への影響を心配したが、利用者同士仲間として送り出すことができている。主治医の指示で本人の状況に応じて精神科・心療内科等の医療機関を紹介されることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員による救命救急法の実技指導を受けた経緯もあるので初期の対応方法は習得している。救急車が到着するまでの応急処置や情報の共有も含めて準備すべきことは研修している。	消防職員による救命救急法の実技指導を受けた経緯もあるので初期の対応方法は習得している。救急車が到着するまでの応急処置や情報の共有も含めて準備すべきことは研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大地震を機に新たなマニュアルを作成している。避難の都度、避難経路、避難場所の確認、消火器の使い方、怪我人の応急処置等防火管理者の指示のもと周知徹底している。	大地震を機に新たなマニュアルを作成している。避難の都度、避難経路、避難場所の確認、消火器の使い方、怪我人の応急処置等防火管理者の指示のもと周知徹底している。	年2回防災訓練を実施している。運営推進会議で訓練を周知し、避難誘導に近隣住民の方が1~2名参加している。法人と連携してグループホーム用として新マニュアルを作成中である。飲料水等の備蓄が整って、地域の避難場所になっている。夜間想定訓練やヘルメット・防災ずきん等については今後検討する。	夜間を想定した避難訓練を実施し、2名の夜勤者の役割やどのように動かせ各職員が体験することが必要と思われる。ヘルメット、防災頭巾、タオル等を装備し、訓練後の状況を記録に残すことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの中でも本人の尊厳を無視して言葉がけや態度、ケア等に最大限の気配り怠らず対応している。採用時「個人情報保護に関する誓約書」を提出し在職中はもちろん、退職後も知り得た情報を漏らすことのないように管理徹底している。	馴れ合いの中でも本人の尊厳を無視して言葉がけや態度、ケア等に最大限の気配り怠らず対応している。採用時「個人情報保護に関する誓約書」を提出し在職中はもちろん、退職後も知り得た情報を漏らすことのないように管理徹底している。	買い物や外出の要望には早急に対応するようにしている。入浴時の洋服を本人が選ぶ、トイレ誘導時の声掛けをする、居室に入る際の声掛け、ノックをする等日常的な事柄に心くばりして、馴れ合いにならないように配慮している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム青沼

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせた声掛け、意思表示が困難な方には表情を読み取ったりメモなどを使って些細なことで本人が決める場面を作っている。(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいこと等)	個々の状態に合わせた声掛け、意思表示が困難な方には表情を読み取ったりメモなどを使って些細なことで本人が決める場面を作っている。(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいこと等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、時間を区切って過ごし方はしていない。外出(買い物や散歩)についても体調や状態を見て、その日、その時の気持ちを尊重した柔軟な対応をしている。	基本的な日課はあるが、時間を区切って過ごし方はしていない。外出(買い物や散歩)についても体調や状態を見て、その日、その時の気持ちを尊重した柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の私服や外出の服装は自ら選んで着ている。介護士は見守り、支援が必要な場合は手伝う。理容は二ヶ月に一回程度行き、本人が希望する髪型にカットしている。	普段の私服や外出の服装は自ら選んで着ている。介護士は見守り、支援が必要な場合は手伝う。理容は二ヶ月に一回程度行き、本人が希望する髪型にカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳、片付け、食器洗いも一緒にやっている。食事する時には、介護士もテーブルを囲んで和やかな雰囲気食べている。年に数回外食する機会も取り入れている。	調理や盛り付け、配膳、片付け、食器洗いも一緒にやっている。食事する時には、介護士もテーブルを囲んで和やかな雰囲気食べている。年に数回外食する機会も取り入れている。	1日3回の食事の献立は業者がつくり配食されている。おかずの温め、ご飯、みそ汁はホームで作り、利用者も盛り付け、配膳、片付け、食器洗い等を職員と共にやっている。行事の外食、焼肉やおはぎづくり、家族からの旬の差し入れ等で利用者が楽しめる食事の機会がある。職員も一部介助しながら一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿や肥満値が高い方には出来るだけその人に合った栄養バランスを考慮しながら対応している。毎日利用者の食事摂取や水分量を記録や申し送り共有している。	糖尿や肥満値が高い方には出来るだけその人に合った栄養バランスを考慮しながら対応している。毎日利用者の食事摂取や水分量を記録や申し送り共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔清潔保持のため声掛けして個々の能力に応じて介護士が見守ったり、介助している。就寝前には、義歯を外して洗浄液に浸している。	食後に口腔清潔保持のため声掛けして個々の能力に応じて介護士が見守ったり、介助している。就寝前には、義歯を外して洗浄液に浸している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄自立以外の利用者個々の排泄パターンを把握し声掛けで誘導を行っている。その中で、リハビリやパット外すことに力を入れている。	排泄自立以外の利用者個々の排泄パターンを把握し声掛けで誘導を行っている。その中で、リハビリやパット外すことに力を入れている。	日中は排泄チェック表を用い、リハビリパットやパットを外すことに努力している。夜間は本人が気になるのでオムツ使用している方もいるが、布パンツのみ使用の方、布パンツにパット使用、リハビリパット使用等利用者の状態に合った支援をしている。入居後トイレ誘導により、リハビリパットから布パンツになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者には主治医の指示で内服の量や頻度を対応している。予防策として水分補給や繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また、体操や散歩、食事前の口腔体操で体を動かして自然排便できるように支援している。	便秘気味の利用者には主治医の指示で内服の量や頻度を対応している。予防策として水分補給や繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また、体操や散歩、食事前の口腔体操で体を動かして自然排便できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1階、2階交互に週3回朝から一人で入浴している。着脱や入浴の介助は個々の状態を把握して対応している。入浴を拒む人には、言葉がけの工夫やチームプレーによって一人一人に合わせた入浴支援をおしている。	1階、2階交互に週4回朝から一人で入浴している。着脱や入浴の介助は個々の状態を把握して対応している。入浴を拒む人には、言葉がけの工夫やチームプレーによって一人一人に合わせた入浴支援をおしている。	基本的に1階が月・水・金曜日、2階が火・木・土曜日に入浴し、一人が週3回の入浴をしている。浴槽は広くゆったりしている。冬場は湯の花入れる他、軟膏、化粧水等を使用して保温に配慮している。居室から各々自分で選んだ着替えの衣類を籠に入れて用意し脱衣場に持っていつている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム青沼

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中個々の生活リズムを把握した中でその人に合った活動を促し夜間心地よく安眠ができるように支援している。特に夕食後からテレビを観たり団楽したり思い思いに過ごして安心感を持たせゆっくりお休みできるように対応している。	日中個々の生活リズムを把握した中でその人に合った活動を促し夜間心地よく安眠ができるように支援している。特に夕食後からテレビを観たり団楽したり思い思いに過ごして安心感を持たせゆっくりお休みできるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度処方内容を個々のファイルに整理し介護士が内容を把握して内服している。状況により手渡して飲むまで確認の他、口に入れて服薬まで確かめている。処方箋の内容、容量等が変化があれば主治医と連携し対応している。	その都度処方内容を個々のファイルに整理し介護士が内容を把握して内服している。状況により手渡して飲むまで確認の他、口に入れて服薬まで確かめている。処方箋の内容、容量等が変化があれば主治医と連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長い人生経験の中で一人ひとりの特異とすることを把握して食事準備、掃除等の他、季節により家庭菜園づくり。また、外出支援、地域の行事参加、催し物の見学等ストレス解消に努めている。	長い人生経験の中で一人ひとりの特異とすることを把握して食事準備、掃除等の他、季節により家庭菜園づくり。また、外出支援、地域の行事参加、催し物の見学等ストレス解消に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望、話し合いで屋外に出掛けることの常に行っている。季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋げるように散歩、ドライブ、買い物に出かける。また、公園等に出掛けている。	利用者の要望、話し合いで屋外に出掛けることの常に行っている。季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋げるように散歩、ドライブ、買い物に出かける。また、公園等に出掛けている。	利用者の希望に応じて戸外に行く機会を作っている。紅葉見物、散歩、買い物、ドライブ等、中でも市民会館が近いのでいろいろな催しを見に行くことが多い。墓参り、法要、結婚式等家族の送迎で外出することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中にはお金を所持しており、時折スーパーやドラッグストアにて日用品や食べ物を購入し、買い物をしたという満足感を味わっている。	利用者の中にはお金を所持しており、時折スーパーやドラッグストアにて日用品や食べ物を購入し、買い物をしたという満足感を味わっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はある程度自由に掛けるようになってきている。かかってきた場合もつなげている。手紙や年賀状で友人とのやり取りもしている。	電話はある程度自由に掛けるようになってきている。かかってきた場合もつなげている。手紙や年賀状で友人とのやり取りもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二階建てで周囲に高い建物もなく、一日中陽が当たり環境も良い。内部ホールや廊下にゆとりのある広さで、浴室、トイレも分かりやすくなっている。ホールには、利用者と一緒に作った貼り絵や行事で撮影した写真が飾ってある。	二階建てで周囲に高い建物もなく、一日中陽が当たり環境も良い。内部ホールや廊下にゆとりのある広さで、浴室、トイレも分かりやすくなっている。ホールには、利用者と一緒に作った貼り絵や行事で撮影した写真が飾ってある。	廊下は回廊式で陽当たりが良く明るい。フロアには観葉植物の鉢植えが置かれ、利用者が水を与えて育てている。トイレや風呂場は広く、キッチン是对面式で食事のテーブルは座りやすいようにカーブしている。大型テレビがある量の部分に冬場はこたつをたてて皆が集う場となっている。壁面の装飾は工夫された作品で、利用者も参加している。玄関にAEDが設置してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホール等の空間を活用し、椅子やテーブル、ソファを置き利用者同士や家族共に気軽にお話しができるように工夫している。時々、一人でのんびりと寛いでいる方もいる。	廊下やホール等の空間を活用し、椅子やテーブル、ソファを置き利用者同士や家族共に気軽にお話しができるように工夫している。時々、一人でのんびりと寛いでいる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具やテレビ等の持ち込みも自由で家族や介護士と相談しながら配置して居心地よく工夫している。	家庭で使い慣れた家具やテレビ等の持ち込みも自由で家族や介護士と相談しながら配置して居心地よく工夫している。	居室にはエアコン、洗面所、ベット、クローゼットが備えている。どの部屋も陽当たりが良く明るい。馴染みの草花、テレビ、仏壇等が持ち込まれ、壁には家族の写真や、誕生カードが貼られて、本人が居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーでホール、廊下、階段に手すりがありエレベーターも設置して安全に配慮している。厨房のシンク、調理台も使いやすく出来ている。また、居室の洗面台もセンサーで感知し水がでるようになってきている。	内部はバリアフリーでホール、廊下、階段に手すりがありエレベーターも設置して安全に配慮している。厨房のシンク、調理台も使いやすく出来ている。また、居室の洗面台もセンサーで感知し水がでるようになってきている。		